

日本発ドイツ便り : Albrecht Dürer

Nürnberg 出身の有名人といえは？

やっぱり Albrecht Dürer (アルブレヒト・デューラー) でしょうか。1471 年に Nürnberg で生まれた Dürer は、ドイツ・ルネサンス期を代表する画家・版画家・そして数学者です。



有名な野ウサギの絵と自画像です¹。

丁度、かなり大規模な Dürer 展が開催されている、ということで、珍しく美術館に行ってきました。



Germanisches Nationalmuseum (ドイツ国立博物館) です。

今回の Dürer 展は "Der frühe Dürer" (「初期のデューラー」) をテーマに、世界各国の著名な美術館から貸し出された、初期の作品約 200 点を展示しているとのこと。「Dürer の故郷」ということもあるのですが、すごい気合いが感じられます。

これだけ大きな Dürer 展は、ドイツでも 40 年ぶり+初期の作品に焦点を絞った初めての展覧会とのこと、連日の大行列。通常美術館は月曜日が休みなのですが、2012 年 5 月 24 日 ~ 2012 年 9 月 2 日の期間中は休館日なしとのこと。私は、少しは空いてるかな? と期待しつつ、月曜日のお昼頃に行ってみました。中に入場者数を制限しているの、チケット買うのに 30 分。中に入るまでに 30 分、という感じでした。(係員のおっちゃんいわく、「土日はホンマにえらいことになっているから、今日はまだラッキーな方」とのことでした。大阪弁じゃなかったですけどね。☺)

¹ Feldhase: http://de.wikipedia.org/w/index.php?title=Datei:Durer_Young_Hare.jpg&filetimestamp=20070406222804 (この絵は初期の作品ではないので、今回の展覧会にはありませんでした。ウィーンの Albertina (アルベルティーナ美術館) にあります。)
Selbstbildnis im Pelzrock: http://en.wikipedia.org/wiki/File:Durer_selfportrait.jpg



展示会はカメラ禁止なので、写真はないです。オーディオガイドなりガイドさんの説明を適当に聞きつつしっかり見てきました。どうしても宗教に関する絵が多いので、聖書を知っていたらもっと楽しめるかのになあ、とちょっと残念ではありました。でも「これ好き!」と思う絵も多く（あくまでも直観で）、普段はめったに美術館には行かない私ですが、音楽同様、写真では伝わらない「本物」だけが持つ「力」というかオーラがやっぱりあるなあ、と改めて実感しました。

美術館の中の様子



展示会の後は、館内のカフェでお茶しながら、展示会の感想を語り合うのも良いですね。軽い食事もできますよ。

大きなテーブルに色んなカタログや写真集が置いてあって、自由に見れるようになっているので、今展示会で見てきた絵の復習もできます。



展覧会の後は、街の中のDürerを。DürerはNürnbergで生まれて、ほとんど、この街で活躍した人なので、ゆかりの場所、Dürerの名前の付いた場所も多いです。(学校もあります！)



Kaiserburg (カイザーブルク城) 近くの Albrecht-Dürer-Haus (デューラーの家) 1509年から1528年に亡くなるまで暮らした家です。今では、博物館になっています。



Albrecht-Dürer-Platz (デューラー広場)には銅像が。

最近、こんなものも登場しました。街の中で、他にも何種類か見つけました。観光客向けのガイドです。ボタンを押すと、その場所の音声ガイドが流れたり、紙芝居風に歴史ガイドがあつたりするんです。なかなか面白いなと思いました。(ただ、一つ一つの説明が結構長いので、最初から最後までちゃんと聞いたわけではないですけどね。☺)

Dürerの街、Nürnberg、是非一度お出かけください。

